

## 7. 共に創る書のワークショップと 感覚造形遊び活動

グループ名 学童保育つむぎ ボランティア  
代表者 高橋 眞琴

### 活動の目的

「学童保育つむぎ」は兵庫県神戸市灘区にある神戸大学大学院人間発達環境学研究科ヒューマンコミュニティ創成研究センターのサテライトである「のびやかスペースあーち」で活動を行っている障害のある子どもたちの「居場所づくり事業」のボランティアが、神戸市東灘区で学童保育が不足しているという情報を受け、2008年4月から立ち上げた学童保育です。そこでは、地域の障害のある子どもたちを積極的に受け入れ、障害のない子どもたちと一緒に楽しく放課後を過ごしています。障害のある子どもたちのお母さん方も子どもたちの指導員として活躍しておられます。また、地域の団塊の世代の方の居場所作り事業や、中国からの留学生が中心となって「中国語カフェ」を開催しています。

今回の「共に創る書のワークショップと感覚造形活動」では障害の有無に関わらず子どもたちが地域住民のみなさんと一緒になって筆を持って自由に線や文字を描いたり、造形活動ができたりすることで、「一緒に活動をして楽しかった」、「おもしろかった」と思っただけのお手伝いができたらと思い活動をしています。

### 活動概要

子どもたちと一緒に延長保育の時間帯や、土曜日・春休み・冬休み・夏休みに呼びかけて、ワークショップを行いました。学童保育つむぎに来ている子どもたちや保護者さんにポスターを作製し呼びかけたり、学童保育つむぎのブログで紹介をしたりすることで「学童保育つむぎ」の会員以外の地域の皆さんも来てくださいました。地域の皆さんは、ワークショップに参加している間、子育てや地域の話に花を咲かせていました。

障害のある子どもたちは障害のない子どもたちと一緒に活動を行うことで、自分から意欲的に参加する場面が多く、周囲の大人が驚くような文字を毛筆で書く様子もありました。

また、ブラックライトを用いて、光遊びも一緒に行いました。北欧で用いられるスノーズレン機器（バブルチューブ、サイドグロウなど）を併用することで、日常にない不思議な雰囲気の中で子どもたちは造形活動を体験できました。

2009年9月には、子どもたちが製作したものをういて作品展を行いました。作品展にも「学童保育つむぎ」の活動に興味のある地域住民の方もブログを見て来場されました。お話の中では地域の学童保育の現状、学校行事への参画のあり方、新型インフルエンザの対策などについてもお話が出ていました。以下は活動の様子の一部となります。

マーブルリングの様子



なんだか実験みたいですね。



水につけて模様をとるのに興味しんしん



地域の皆さんの参加もありました。



フォトフレームに仕上がりました。

書のワークショップ



みんなで思い思いに筆をとりました。



大きな線に夢中になって...

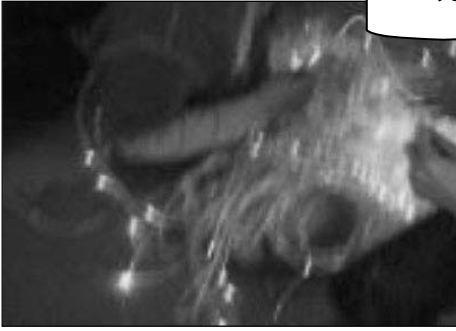


墨画を書き出す子供さんも...



この「一」の文字はなかなかです！

光遊びの様子



サイドグロウ（太目の光ファイバーの束）  
を用いての光遊び



のびやかスペースあーちにて  
「居場所づくり」のボランティアさん  
一緒に蛍光アートを製作しました。



蛍光アートに夢中...です

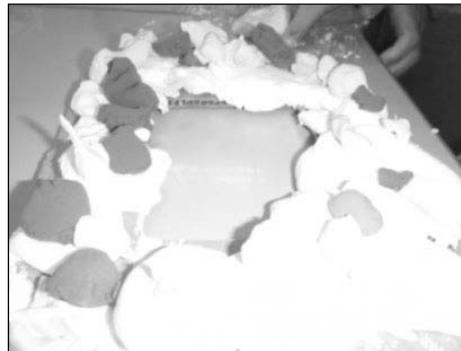


後ろで光っているのは  
ブラックライトと蛍光アートです。

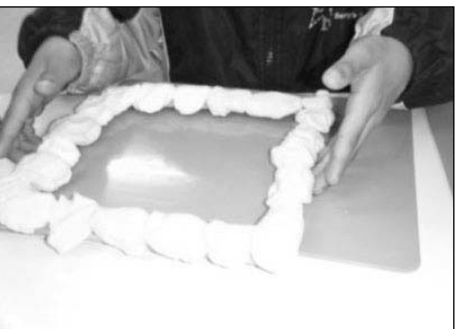
ムーズ粘土を使って



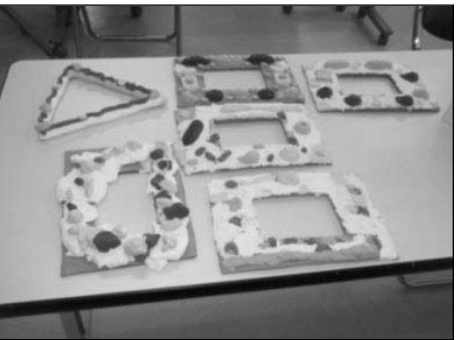
のびやかスペースあーちで行いました。



ボリュームのあるお菓子のフレームを  
夢中でつくりました。

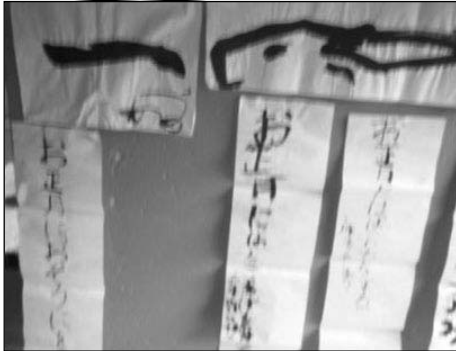


「さあつくるよー」



おいしそうな作品に仕上がりました。

作品展示の様子



みんなで描いた文字の様子



マーブリングと神戸サンシャインワークの「ゆめのはこさん」で創ったお人形です。

決算報告書

収入	
大同生命厚生事業団助成金	200,000-
支出	
ボランティア交通費(神戸市バス)	9,600-
200円×往復×月2回<ワークショップ時>	
ボランティア交通費(神戸市バス)	48,000-
200円×往復×月10回<通常時>	
スヌーズレン機器<レンタル>運搬費5回	11,800-
(高速料金:中国縦貫道宝塚-六甲トンネル	
1,180円×往復×5回)	
(ガソリン代:宝塚のびやかスペース	
あーち:68km×往復×リッター130円×	5,850-
5回)	
書道材料費、手本代等	76,558-
造形用品代(材料費・用具代等)	68,892-
つむぎ場所使用料 24回分	24,000-
合計	244,700-